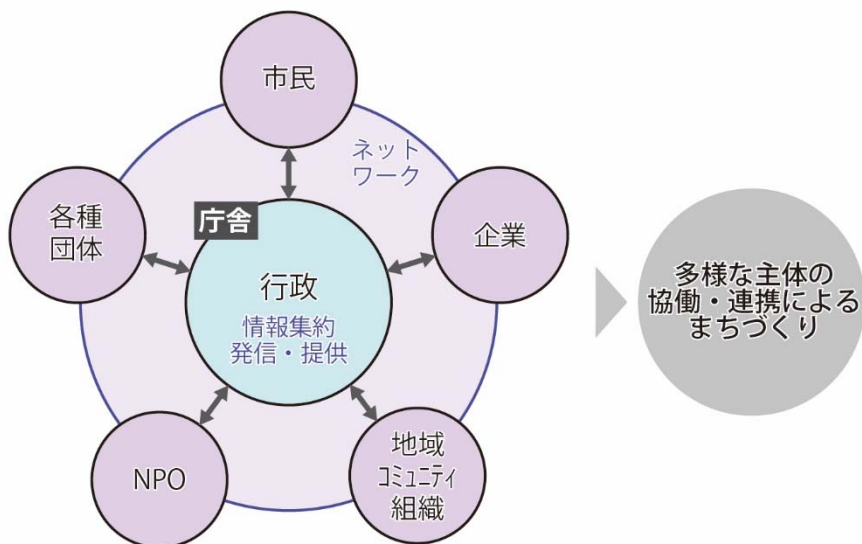


1. 新庁舎の在り方

資料 2-2

■まちづくりの拠点となる庁舎

- ・社会のニーズや価値観が多様化する現在において、富良野市の魅力や強みを活かしたまちづくりのためには、行政、地域コミュニティ組織、NPO、企業、市民各諸団体など多様な人々が主体となって連携することが求められる。
- ・こうした市民や地域などの積極的な参加を通じてまちづくりを推進していくためには、情報の共有化が重要であり、膨大な量の情報を集約化し、適正なものにした上で発信・提供を行う場が必要となる。
- ・本計画の庁舎は、さまざまな情報資産を持つ行政の特性を活かし、庁舎を拠点としたネットワークによって、市民や地域をつなぎ、賑わいのあるまちづくりへと発展させる施設となることを目指す。



【協働による市民と行政のまちづくりのイメージ】

■集約化の意義

- ・行政は、市民生活に関わる様々な業務を多岐にわたって取り扱い、それぞれの業務が関連性を持ちながら連携して行政サービスを提供している。
- ・分散化した行政機能を集約することにより、各種手続きの効率化や関連する複数の情報を一度に得られるなど、市民の利便性が向上する。
- ・行政機能の集約化は、行政が持つ情報を市民や地域、企業など様々な人に発信・提供しやすくなり、市民相互の連携を促し、市民協働によるまちづくりを支援することができる。
- ・素早い意思の疎通により、円滑に行政事務を執行することができ、事務の効率化につながる。